

令和2年度 新人紹介

毎日笑顔で一人ひとりの利用者様に向き合い、居心地の良い居場所が提供できるような支援員になります！

夕凧



児童指導員
岡野 鈴

子どもたちの笑顔や元気を糧に、何倍もの活力を届けます。

宮領ワーク



管理栄養士
川崎 穂果

利用者様に楽しんで、喜んで頂けるような食事作りを心がけていきます。

デイこだま



支援員
森岡 希梨花

利用者様一人ひとりに合った食事の提供ができるように頑張ります！

あさひ



支援員
赤木 千佳

利用者様の気持ちを大切に行動ができるように、自己研鑽し頑張ります。



管理栄養士
田中 真帆

あさひでの昼食が、幸せなひとときになるような食事作りをしています！！

西の池学園



管理栄養士
今田 朋花

利用者様一人ひとりに合った食事の提供ができるように頑張ります！



事務員
上原 唯香

利用者、職員の皆様の生活をサポートできるように頑張ります。



支援員
田村 葉

利用者様の支援と、創作活動にも力を入れていきます。



支援員
三木 菜実子

利用者様と共に成長できる支援者を目指します。



支援員
三木 陽地

利用者様の為になる働きかけが出来るように日々頑張っていきます。

支援員 大亀 梨花

新人教育トレーナーとして

平成会では、新人職員一人一人にトレーナーがつき懇切丁寧な新人教育を行っています。
私は入社して1年が過ぎ、今年度は新人教育を担当するトレーナーになりました。1年前、何も分からない状態で入社しましたが、トレーナーの先輩に丁寧に教えて頂きました。その中でも、直接「何か悩みや困っていることはありませんか」と聞かれるのではなく、普段の会話の中で私が困っていることやしんどいと感じていることを引き出して相談にのって下さったことが印象深かったです。
面と向かって聞かれるよりも会話の中で引き出してもらえると話しやすく、悩みも遠慮せず相談することができました。
そのように、自分が1年目の時に経験して良かったことを新人職員にもできるように心がけ、新人教育を行っています。今でもトレーナーの先輩職員には相談しやすく、安心して仕事をすることができ、私もそのようなトレーナーになれるよう、新人職員との関係を築き、一緒に成長していきたいと思っています。

多機能型事業所あさひ

「地域と共に」

あさひでは、地域の方やあさひ利用者のご家族が持つて来てくださった牛乳パックを再利用し、色とりどりのハガキや封筒、ポチ袋を作って販売をしています。

今年の2月、あさひの近くに開設された「中通簡易郵便局」の局長さんから声をかけて頂き、作品の展示やハガキの販売をして頂くことになりました。ここでの売り上げが利用者さんの工賃になることや、散歩に行った際にも局長さんから声をかけて頂くことで、利用者さんの励みになっています。

局長さんに伺うと、「郵便事業よりも地域の方に便利な生活をしてほしい」という思いで郵便局を開かれたとのこと、郵便局が地域の情報交換や交流の場にもなっています。

おかげさまで地域の方からは、「あさひではこういうことをしてるんじゃないか」「こんなに細かい作業が出来るとはすごいわね」といった声を頂いており、あさひのことを知って頂くきっかけになっています。地域の皆様にご協力を頂きながら、地域に根付いた施設でありたいと思っています。

支援員 瀬古 昌弘



利用者さんの日常に笑顔を！

西の池学園では、新型コロナウイルス感染予防のため、マスクの着用、手洗い、消毒の徹底をはじめ、食事や入浴面でのグループ分けなどの対策を行っています。利用者さんにとって、外出や家族との面会制限、行事・イベントの中止など様々な生活の制限が大きなストレスになっていると感じられます。

このような状況でも「利用者さんの日常に笑顔を作りたい！」と思い行ったのが『西カフェ』です。本格コーヒーの香り漂うこだわりのカフェは、以前から利用者さんの楽しみの一つとして取り組んできたのですが、今回はあおぞらばん屋さん協力の下、利用者さんにお好きなパンを一つ選んで頂き、パンとコーヒーをセットでおもてなしする計画を立てました。一週間前に案内ポスターを掲示すると「どのパンにしよう」「コーヒーも出るん!」などとても楽しみにされている様子でした。当日も「美味しい」「ありがたう。またしてえの」とたくさんの笑顔が飛び交いました。

緊迫した日々が続く、職員もより気を引き締めて業務にあたっていますが、若い職員から「次は駄菓子屋さんしよう!」「ミニ屋台も喜ばれるかな」など



沢山の案を出してくれています。これから利用者さんが楽しみを持ち笑顔で過ごして頂ける様に、職員全員で力を合わせ、取り組みを続けていきたいと思っています。

支援員 瀧岡 峰花

西の池学園

転職を力に

私は以前、高齢者のデイケア事業所で6年間勤務していましたが、昨年7月、子供の誕生を契機に平成会に支援員として入職しました。しかし入職当初は、「ここまで自分の常識が通用しないのか」と衝撃を受けました。というのも、利用者の方の障がいの状態は様々で、それまでの自分の常識の範囲で「こうサポートすればこうなるだろう」と高齢者支援で培った考え方で実行しても、ここ「こ」と上手いかなかったのです。しかし、ある時気づきました。自分は、利用者の方のためというより、支援員側の都合でサポートしているだけなのではないかと。以来、利用者の方のありのままを一旦引き受けて、気負わずに接するようにすると、支援がしやすくなりました。

もちろん、介護技術であったり、コミュニケーションの方法であったり、6年間培ったスキルは無駄にはなっていない。前職の経験があることで、現在の職場を客観視できるのも自分の強みだと思います。

利用者さんと



平成会では、中途採用職員の努力がきちんと認められキャリアアップすることができます。人と関わるのが好きな人にはお勧めの職場だと思っています。

支援員 清水 一成

※誌面の写真、名前については、ご本人の同意を得て掲載しています。